

SAIL 'O' 通信 NO. 71

大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2023年2月21日発行

会報目次

1. ボランティアレポート、他
 - ① 大阪マラソン 2022-2023
 - ② 着付け用の着物の風通し
 - ③ 菱垣廻船保存プロジェクト 3年ぶりの第14回天保山まつりを盛り上げました！
2. 旅行記・イベント参加報告
 - ① お花見会開催報告
 - ② 本州一周の航海
 - ③ 樽廻船の航海
 - ④ 忘年会 於:大阪北港マリーナ/メルボルンハウス
 - ⑤ 長崎訪問レポート
 - ⑥ 咲洲コスモタワーホテル宿泊記
 - ⑦ これも船旅 単身赴任引き上げの瀬戸内航路フェリー
3. その他、情報
 - ① 令和3年度大阪帆船と国際交流の会総会報告
 - ② 令和4年度大阪帆船と国際交流の会総会のご案内
 - ③ 令和4年度役員募集
 - ④ 帆船みらいへ生誕30周年

記事本文

1. ボランティアレポート、他
 - ① 大阪マラソン 2022-2023

“大阪マラソン 2022”が2022年2月27日(日)に開催され、セイル“O”は19名で参加しました。担当はコース沿道整理。場所は千代崎・みなと通ブロックの79区、府立市岡高校の南側でした。当日は穏やかで寒さはあまり感じませんでした。本来ならば、セイル“O”の横断幕を掲げて、高見さんと橋本さんが走る姿に声援を送るのですが、あいにく、新型コロナの影響で、一般ランナーの参加は中止となりました。残念！！

今年も“大阪マラソン 2023”にボランティアとしての参加を申し込みました。日時は2月26日(日)8時ごろから13時05分ごろの予定。集合場所は九条公園(大阪市西区九条通南一丁目1)に8時10分に集合。業務内容は、71区(市立西中学校の前あたり)コース沿道整理/トイレ誘導です。都合のつく方はいらしてください。

タカさん！！ハッサン！！今年は参加ですね！精一杯応援します！ 中路さん

② 着付け用の着物の風通し

ここ数年、外国客船の大阪港への入港がなく、呈茶や着付けの機会がなく、プラスチックケースに入ったままの着物の風通しを3月20日に行いました。天保山ターミナルのいわゆるお弁当広場の一角には色とりどりの着物や帯が並びました。 中路さん

③ 菱垣廻船保存プロジェクト 3年ぶりの第14回天保山まつりを盛り上げました！

夕陽が迫る頃、大阪市港区築港の港住吉神社の境内に帰着した浪華丸ヒガキくん（1/3菱垣廻船）の成功を祝い、みんなが輪になり一本締めでお開きとなりました。

2022年7月に第14回天保山まつりは11月20日（日）に開催が決定。菱垣廻船保存プロジェクトは当日に向け点検や美装のスケジュールを組みます。コロナ禍で3年ぶりのヒガキくんは、保護シートで覆われているとはいえ風雨に晒され埃で汚れています。

特にシャーシ（台車）の点検は安全上欠かせません。汚れ落としと剥がれた部分のペンキ塗り。甲板の掃き掃除などなど晴れの舞台で輝けと、思い思いにスタッフが立ち回ります。天保山まつりを前日にひかえた11月19日（土）は、好天に恵まれ作業ははかどった。そんな中、翌日の予報は高確率で雨天、スタッフの顔が心なしか曇っている。10時50分のオープニングに合わせるための移送。ここでもコロナ禍の影響で曳いてくれる子ども達の姿はありません。今回は、まちなかパレードではなくエキシビション展帆。私たち大人22名がヒガキくんを曳いてサンセット広場に向かうことに。11月20日（日）当日早朝、降雨を観測。集合時間午前8時も予報通りの雨がぱらついていましたが幸運なことに回復基調、結果として天候気温ともに良好。

午前10時サンセット広場に到着。ヒガキくんを定位置に据えると多くの視線を感じた。開催を待つ来場者が注目する中、8名のスタッフが慎重に帆柱を立て帆をセット。和太鼓「隼」による勇壮な寄せ太鼓が響き会場がひとつになった。太鼓の調子に合わせて帆桁をゆっくり上げると海風で帆が孕む。この時、江戸時代の安治川を行き来していた千石船 菱垣廻船が甦る。多くの生活物資を積み江戸へ向かう菱垣廻船のカタチを演出した。

そして恒例となった甲板上からの福餅撒き。今回はご当地港区の山口照美区長をはじめ9名が威勢よくまくと市民が両手を広げ、福を授かろうと船の舷側に集まってきます。

この光景を目にした時、例年の天保山まつりが戻って来たと感じた。そして2023年秋は、子ども達が元気よくヒガキくんを曳く菱垣廻船まちなかパレードの再開を願う。

高見 昌弘さん

2. 旅行記・イベント参加報告

① お花見会開催報告

恒例のお花見会が4月2日（土）に行われました。コロナの影響と大阪城公園の改修工事のために、今回もホテルニューオオタニ大阪南側第二寝屋川右岸堤防敷の遊歩道でのお花見になりました。ロケーション的には大阪城を遠望でき、対岸の桜も鑑賞できていいのですが、ビニールシートを敷いての宴会はできません。ベンチや石垣に腰を掛けて、紙コップ片手の談笑になりました。今年こそ、かつてのお花見を期待しています。 中路さん

② 本州一周の航海

2022年4月29日10時、雨天にも関わらず大阪北港マリーナから大阪港振興協会有田事務局長をはじめ多くの方々の見送りを受けて出港したセイルボート『Southern Cross』は、和歌山マリーナシティ、周参見港、八丈島八重根港、静岡県清水港、下田港、神奈川県真鶴港、浦賀ヴェラリス、東京都夢の島マリーナ、千葉県保田（ほた）港、勝浦港、宮城県寒風沢（さぶさわ）港、石巻港、金華山港、

青森県大間港、北海道函館港、木古内港、青森県三厩港、秋田県由利本荘マリーナ、新潟県佐渡小木港、石川県福浦港、塩屋港、鳥取県境港マリーナ、島根県温泉津港、山口県室津港、愛媛県今治港に寄港して、途中のセイルトラブル、エンジントラブル、座礁にもめげず、約3か月の航海を終え、7月28日16時30分、丸亀本島笠島港に入港しました。航海中や寄港地で記憶の残る様々な出来事がありました、その中で六つを写真とともに紹介させていただきます。

写真①は八丈小島です。大阪港を出港し加太瀬戸に近づく頃に竜巻に出会いました。波しぶきの柱がいくつも海面から立ち上がっていました。初めての経験でした。荒天は翌日も続き目的地を小笠原諸島から八丈島に変え、八丈島で様子を見ることにしました。しかし、天気図からは3日間好天が続く見込みはなく小笠原行きを断念しました。写真②金華山の鹿の群れです。金華山灯台へは黄金山神社から山越えで向かいました。金華山灯台に着くと、いくつもの鹿の群れがあり、動物園とは逆で我々が丘の上から見られているような感じがしました。いくつもののがけ崩れの道を辿りようやく港に戻ると、『これから先への通行はご遠慮ください』の看板がありました。鹿の群れが逃げもせず怪訝な顔をして我々を眺めている理由がわかりました。写真③下北半島の尻屋岬です。塩屋岬を回れば大間港はもうすぐです。「マグロが待っている！！」と思ったとたん、エンジンが止まりました。調べてみると燃料タンクの底に貯まったごみで軽油がエンジンまで届いていない状態。ゴムホースを外し、直接、20ℓポリタンから軽油をエンジンに送ることにしました。ところがまた止まる。理由はエンジンから燃料タンクに戻る軽油で燃料タンクが満タンになっている。戻りのゴムホースも20ℓポリタンに入れることで解決できました。函館港で燃料タンクを掃除しました。写真④は木古内サラキ岬です。咸臨丸終焉の地です。明治時代になり、白石藩士らは北海道開拓のために寒風沢港から小樽港に向けて咸臨丸に乗り込んだ。エンジンを降ろし帆船になっていた咸臨丸は、途中、サラキ岬で、無風、海流、潮流のために座礁。夜間にかかわらず、村民の献身的な活動で乗員全員が救出されました。咸臨丸は今も眠っています。咸臨丸がオランダで建造されたことから春になるとオランダから送られてきたチューリップでサラキ岬は埋め尽くされます。満開の頃に再び訪れたいと思っています。写真⑤は佐渡弾(はじき)埼灯台に立っている灯台守夫婦の銅像です。『喜びも悲しみも幾年月』。航海の安全のために灯台を守り続けた夫婦の物語です。レーダーや船位測定機器が使用される時代であっても、夜航海の時に灯台の灯りを探します。小樽日和山灯台、観音埼灯台、大島灯台、御前崎灯台、安乗埼灯台、豊後水道水ノ子島灯台、男女群島女島灯台、映画に出て来る灯台を訪ねている私にとって、弾埼灯台は最後の灯台でした。写真⑥は石川県塩屋港です。3年前の弁才船の航海でも寄港しました。北前船の船主大家家の地元です。弁才船ゆかりの塩屋港は抜港できません。入港後、最寄りの山代温泉総湯に浸かりました。

本州一周の航海は時計回りと反時計回りの2度経験しましたが、今回は楽な時計回りで。理由は海流です。 中路さん

③ 樽廻船の航海

江戸時代、丹波杜氏、六甲の宮水、六甲おろしといった環境に恵まれて生まれた灘の酒は、大消費地となった江戸で『下り酒』と呼ばれ大いに人気を集めました。その下り酒を運ぶ役割を担ったのが樽廻船でした。日本一の酒どころとしての灘五郷の礎を築いた樽廻船の歴史的功績は語り継がれるべきとの思いから、一昨年に続いて、昨年もセイリングヨット『Southern Cross』は、2022年10月30日(日)13時、灘の酒を積んで神戸須磨ヨットハーバーを出港しました。大阪湾、紀伊水道、熊野灘、遠州灘を走り、夜明けに駿河湾に到着し、朝日に輝く富士山を酒樽と共に眺めました(写真①②)。東京夢の島マリーナに着き、陸揚げされた酒樽は、一日、ロビーに展示され、翌日、鏡開き(写真③)されました。杉の香かおる清酒は、江戸時代と同じように、マリーナを訪れた人々に賞味されました。「こんなにまろやかで杉の薫りのするお酒は今までに味わったことがありません。おかわりしてしまいました。」という声を聞いたときには本当によかったと思いました。

「読売新聞のコラムに下り酒の話が載っていますよ。」と、会計監査大西さんからコラムを送付して頂きました。『戻り富士の酒』という文章に接したとき、この清酒『戻り富士の酒』をセイル“O”の皆

さんと味わう機会があればいいなあと思っています。

中路さん

④ 忘年会 於:大阪北港マリーナ/メルボルンハウス

2022年も終盤にさしかかった。コロナ禍も落ち着きの兆しが漂う12月3日(土)。

恒例になった年末の懇親会を行うことができた。参加者はセイルオー会員をはじめ海、港、ヨットで活動する面々約20名が集う。会場のメルボルンハウスは、大阪北港ヨットクラブのクラブハウス、この場所をお借りしての忘年会です。そしてセーラビリティー大阪の仲間たちが集まるコミュニティールーム。そんな素敵な場所は話題が盛り上がらない訳がない。楽しみでもある2025年の大阪・関西万博。特に同年に予定されているのがメルボルン大阪ダブルハンドヨットレース2025(仮称)。豪州メルボルンをスタートしたヨットは5500マイル(約11,000km)先の大阪北港マリーナを目指す。フィニッシュ付近の夢洲は大阪・関西万博の会場。ヨットの愛好家だけではなく、市民を巻き込んだレース参加者との国際交流は、セイルオーの主目的でもある。このメルボルン/大阪ダブルハンドヨットレースがきっかけで始まったアクセスディンギーは、障害の有無にかかわらず誰もがセイリングを体験できる小さなヨット。風で走るヨットは環境にやさしく最もエコロジー。2025年、世界中のヨットや帆船が夢洲に集結し海浮かぶパビリオンになればとセーラビリティー大阪の代表であり大阪北港ヨットクラブ事務局長の藤本 増夫氏とグラスを傾けながら夢を語り合った。 高見昌弘さん

⑤ 長崎訪問レポート

昨年10月29日(土)から2泊で、長崎赴任中にお世話になった長崎サンセットマリーナ所属の「ウェンディ」号の皆さんに再会しに行ってきました。ラッキーなことに、偶然そのタイミングで長崎ベイサイドフェスティバルが開催されており、日本丸と海王丸が並んで停泊していました。

空港から市内に向かい、まずは長崎では欠かせないちゃんぽんを頂きに『群来軒』に直行。この店ならではのあんかけチャーハンも食しエネルギー充電完了!

その後、歩いて水辺の森公園へ。日本丸と海王丸を同時に目にするのは本当に久しぶりで、遠くから2艘が見えただけでも感動しました。さらに近づくと迫力があり非常に美しく、時間が経つのも忘れて暫く見とれてしまいました。

その後、出島ワープに行くとはボートで帆船周りを遊覧というプログラムがあったので迷わず申し込み、帆船の美しい姿を海側からも見る事ができました。

さらに長崎港周辺の周遊船として停泊している『観光丸』の船内見学もできました。観光丸は1855年にオランダから徳川幕府に献上され、長崎海軍伝習所の練習船として使用された日本初の蒸気帆船です。現在の船は、国立アムステルダム海事博物館所蔵の設計図と模型を基にオランダ・ハウステン市の造船所で、できる限り当時に近い姿で復元されたものです。

長崎在住時、日常的に目にしていたものの乗船したことはなかったので、船内まで含めて精巧に復元されていることに大変驚きつつ、細部にわたる美しさに感心しました。

翌日は長崎中心部から車で20分程の所にある福田のサンセットマリーナへ。

関西に戻ってからも何度か長崎は訪問していましたが、マリーナに行くことはなかったので久しぶりでした。楽しみに向かったのですが、昨秋の台風14号の影響であちこちが破壊されているのを目の当たりにして、自然の力の大きさ、その恐ろしさに衝撃を受けました。

ただ幸い停泊しているボートやヨットに大きな被害はなかったとのことで安堵しました。その日は波の影響で出港は出来ませんでしたが、ウェンディの船内で徐々にクルーの皆さんと様々なお話ができ有意義な一時を過ごさせてもらいました。

夜は長崎港で花火を見ながらライトアップされた日本丸、海王丸を見て二日目を終了。

翌日は三度、水辺の森公園に出向き日本丸、海王丸の出港まで見送ることができました。マストに登る際の決まりとなったフルハーネスの絡みなのか、コロナ感染対策の影響なのかは分かりませんが登檣礼はなく、また「ごきげんよう」の挨拶もなかったので少し残念でしたが、帆船は去り行く時もいつも美しいものですね。

ここまでで帰りの飛行機の時間ギリギリとなり長崎を後に帰路に着きました。

仲間との再会と長崎での飲食を楽しみに計画した旅行でしたが、思わぬ形でさらに充実の二泊三日の旅となりました。 北村さん

⑥ 咲洲コスモタワーホテル宿泊記

台風(14号)一過、お天気に恵まれて、9月21日に咲洲コスモタワーホテルに泊まりました。「大阪いっしょいキャンペーン」、2000円クーポン付きなので実質ワンコインです。たぶんインバウンドをターゲットに開業したのでしょうか。大阪城の虎、秀吉の黄金の茶室、壁面に石垣のイメージと、こてこての大阪らしさをコンセプトにしています。部屋は各室、アーティストがデザインしていておしゃれです。タワーなので眺望は抜群、サンセットも楽しめました。部屋からは夜景もきれいです。海遊館やサンタマリア、船が行きかい、大阪市内ながらちょっとしたリゾート気分も味わいました。そして天保山を眺めながらSAIL'0の活動も思い出しました。 篠原真知子さん

⑦ これも船旅 単身赴任引き上げの瀬戸内航路フェリー

昨年末、九州での4年間の務めを終え、大阪に戻ることに。クリスマス前に早々引越しを終えて、残るは車。どうせならと、のんびりできるフェリーを選択。会社の最終出社を終えて、年末の慌ただし中、九州自動車道を門司港まで。順調に進み、出航の2時間前までには新門司港のフェリーターミナルへ。今回は九州から大阪までということで、新門司ー大阪南港航路のある名門大洋フェリー。出航1時間前ぐらいから乗船を開始。今回お世話になるのは、フェリー「きょうと」2021年に就航したばかりの新造船です。船内に車を乗り入れ、更に一つ上の甲板まで上がって駐車。目の前が下に降りるスロープ。これは帰り早く出られるか。ラッキー。早速、鍵を受け取り、船体中央にある個室客室へ。個室にはテレビや洗面まで完備。寝るだけなので、必要十分。出航までには時間があるものの、出航前にレストランがオープンするので、最前列で待機。夕食+朝食の食券を購入して、ビュッフェ形式の食事を堪能。品数も多く、ごはんコーナーにはよく煮込まれたハヤシライスも。出航前に食事を終えて、寒い中、後部甲板にて出航作業をぼーっと眺める。スラスターではほぼ90度回頭して離岸。すごい。早い。さらば、九州。また来るね～。瀬戸内航路を通るため、橋の下をくぐるのだが、いかんせん夜行便。ほとんどが真夜中。唯一の朝方の明石海峡大橋を楽しみに船内へ。フェリーターミナルに売店が無かったので、船内売店にて、九州土産をゲット。反対側には大阪土産も……。適当に時間をつぶし、就寝前にもう一つの楽しみの大浴場へ。ゆっくりと食事ができて、お風呂につかれて、フェリー最高。唯一の難点は、室内に入るとスマホの電波が届かないことぐらいか。その後朝に備えて就寝。朝レストランオープン前に起床し、再び最前列に並ぶ。朝食もビュッフェ形式で、全く手抜き無し。しっかりと食事をしていると、明石海峡大橋が迫ってくる。後部甲板に出て、明石海峡大橋を下から眺める。うーん、橋はでかいけど、フェリーの煙突が当たりそうで、ドキドキ。その後、順調に接岸、いよいよ大阪上陸。車に乗り込む。と、目の前にあったはずのスロープが無い。と思っていたら、目の前の通路が、下に下がっていき、スロープが現れる。おお、秘密基地の発進みたいで、なんか感動。その後、無事に大阪南港に上陸。短い船旅は終わりを告げるのでした。最近、新造船も多く、移動も快適です。是非、皆さんもフェリーでの船旅、楽しんでみませんか？ 辻村 記

3. その他、情報

① 令和3年度大阪帆船と国際交流の会総会報告

2022年2月19日(土)10時、大阪ボランティア協会の大会議室でセイル“O”の総会が開催されました。新型コロナの感染防止のため、座席の間隔を開けて、マスク着用での開催でした。事業報告、会計報告、新年度事業案、新年度会計案、役員(再任)案は拍手で承認されました。2022年はセイル“O”設立25周年の年となることから、コロナ禍の状況を見ながら具体的な作業を進めていくことになりましたが、残念ながら、事業を実施できずに新しい年を迎えました。1年遅れになりますが、今年こそ、皆が集い、祝えることが出来ればと祈っています。 中路さん

② 令和4年度総会について下記の通り、開催のご案内をいたします。

● 開催日時：2月18日（土）10時から12時まで

● 開催場所：大阪ボランティア協会会議室

（大阪市中央区谷町2丁目2-20大手前類第1ビル2階）

● 出欠：同封の葉書にて出欠を2月11日（土）までにご返信ください。

*状況により開催中止をお知らせすることも考えられます。

その際は、総会資料を送付し、ご意見をお伺いします。

③ 令和5年度役員募集

● 令和4年度の役員は以下のとおりです。（敬称略）

代表：中路、副代表：高見、事業担当：遠藤、谷口、田中（孝）、吉川、中津留、土井

広報担当：北村、辻村、藤本、井堀、会計担当：古江、岩村、会計監査：大西

● 令和5年度役員任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

④ 帆船みらいへ生誕30周年

今年は、旧帆船「あこがれ」が進水して30年という節目の年を迎えます。現在は、帆船「みらいへ」と名前を変えて、このコロナ禍の中頑張っています。帆船「みらいへ」生誕30周年を皆でお祝いしましょう。イベント等の情報があれば、連絡網などでお知らせします。

編集後記：

大阪に帰ってまいりました。今年こそは各種ボランティアに直接参加できるといいなあ（辻村）

樽廻船の航海で鏡開きされたお酒は、さぞ美味しかったですよね。私も賞味してみたいです。

今の寒の時期は新酒の季節。蔵元さんが醸されたしぼりたての日本酒を楽しんでいます。

長崎で取得した船舶免許ほぼ行使していないので、今年は練習機会を作りたいです（北村）